※【青枠】については、申請時は消してください※

※別紙で情報の開示に関する提出資料があります。

※情報公開されることを念頭に、実施承認に値すると判断できる記載をお願いします。

・該当をチェックする。継続の場合には前計画書の承認番号を記入する。

・「変更」は承認期間中の変更時（期間延長を含む：最長５年以内）、「継続」は研究期間の最長５年が経過後も継続する場合が該当します。

**動物実験計画書**

学　長　殿

|  |
| --- |
| □ **新規** ・ □ **変更** ・ □**継続**（旧承認番号：　　　　　　） |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 提出年月日 | 年　　月　　日 | 受付年月日 | 年　　月　　日 | 受付番号 |  |
|  |
| **研 究 課 題** | ・他分野の人にも理解できるように配慮し、かつ、簡潔明瞭に記入する。略語は使用しない。 |
| 氏名、フリガナ、所属部局名、連絡先TEL、職名、教育訓練受講の有無をすべて漏れなく記載する。（管理責任者、実施者）※省略や空欄は不可 |
| **動物実験等****管理責任者名**（選択項目を■） | フリガナ |  | 部局名 | 職 | 動物実験の経験等 |
| 氏　名 |  |  | 教育訓練受講□有　□無 |
| 連絡先TEL： |
| **動物実験****実施者名**（括弧内にフリガナ、選択項目を■） | （　　　　　　　　　） |  | 学生の場合は「学類生」・「大学院生」と記載する。 | 教育訓練受講□有　□無 |
| 連絡先TEL： |
| （　　　　　　　　　） |  |  | 教育訓練受講□有　□無 |
| 連絡先TEL： |
| （　　　　　　　　　） |  |  | 教育訓練受講□有　□無 |
| 連絡先TEL： |
| （　　　　　　　　　） |  |  | 教育訓練受講□有　□無 |
| 連絡先TEL： |
| （　　　　　　　　　）実験開始は承認日以降期間は最長で５年間 |  |  | 教育訓練受講□有　□無 |
| 連絡先TEL： |
|  |
| **実験実施期間****(最長５年間)** | 承認後 ～　　　　　年　　　月　　　日 | 中止・終了等 | 　　　　年　　　月　　　日 |
| **飼養保管施設****及び実験室** | 飼養保管施設（動物飼育場所） |  | 実験室（実験実施場所） |  |
| **使用動物** | 動 物 種 | 系統 | 性別 | 匹数 | 微生物学的品質 | 入手先（導入機関名） | 備考 |
|  |  |  | ・動物種ごとに、系統、性別、匹数（頭数）、微生物学的品質、入手先（導入機関名）を記入する。匹数（頭数）は、実験実施全期間において使用する動物の総数を記入する。実施期間が複数年度にわたる場合には【研究計画と方法】の「実験方法」欄に年度ごとの使用数を記入する。・自家繁殖の動物を使用する場合には、入手先に「自家繁殖」と記入する。（継続した自家繁殖の場合、微生物学的品質を担保する観点から、定期的な微生物モニタリングが有効である。） |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **研究計画と方法** | **研究目的、研究概要** （研究目的、研究計画と方法の概要を記入する。）・研究目的、研究計画と方法の概要について、他分野の者にもわかりやすい平易な文章で具体的に記入する。・動物実験が必須であり、それに値する研究の意義があることがわかるように記載する。 |
| **実験方法** （動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。）・審査を適正に行うため【主な実験処置】、【動物の苦痛軽減、排除の方法】等と整合性をもたせて具体的に記入する。特に実験方法については、生体に対する処置や実験手順を漏れなく時系列で明確に記入する。・「○○など」、「○○等」の記載は避け、明確・具体的に記入する。・実験目的のため、給餌について通常のものから変更がある場合は、具体的に何の成分をどのくらいの濃度で、どのくらい与えるのか、具体的に記載する。特許の関係等により明示できない場合はその旨を記載する。・使用動物の算出根拠を明確に記入する。・実験群と対照群を比較するような場合には、各群の動物数、それらの合計数、くり返す場合の総数を【使用動物】の記入内容と一致させる。・麻酔については、具体的方法（投与手段や時期、配合や用量、体重あたりの投与量等【例】三種混合麻酔（塩酸メデトミジン1.875ml+ミダゾラム2ml+酒石酸ブトルファノール2.5mlを生理食塩水で希釈して25mlにする）を、マウス体重10gあたり0.1mlを腹腔内注射する…等）を記入する。・専門用語や略記号、略語等は（）に詳述するか、脚注で補足説明する。・新しい実験手法などで簡明な記述が困難な場合には、説明文書を別紙として添付するか、文献や関係資料を添付する。・人道的エンドポイント（実験動物を激しい苦痛や衰弱から解放するための実験中止時期）は必ず記載する。急性実験でエンドポイントを設定しない場合には、設定しないということとその理由も記載すること。・人道的エンドポイントを適用する場合は、判定方法・判定者を記載する。（【例1】実験中は動物の体調管理に留意し、体重が20％以上減少した時点、あるいは発声・異常姿勢、自傷、呼吸困難など著しい苦悶の症状を示した場合は、動物実験等管理責任者が人道的エンドポイントと判断し、速やかに麻酔下において頚椎脱臼にて安楽死処置を行う。【例2】（学外飼育の産業動物の場合）試験中に病的な症状が認められた場合は動物実験等管理責任者が速やかに獣医師に連絡をとり、獣医師の治療および指示を仰いで、必要な対応を行う。人道的エンドポイントについても獣医師の判断に従い、安楽死が必要な場合は獣医師にその方法も含めて依頼する。）・自家繁殖の場合、系統維持のため、実験に使用できない動物が生じた場合の処分方法についても記載する。・「適用除外に当てはまる実験を実施するが、諸般の事情から事前の審査・承認を必要とすることから申請を行う場合」や「学外の施設で飼育されている動物を対象に実験を実施するが、実施場所での審査体制がなく、本学教職員が研究実施の主導であり、事前の審査・承認を必要とすることから申請を行う場合」については、通常の動物実験において必要となる事前の施設等の承認を経ないため、飼養保管施設および実験実施場所での飼育状況がわかるように【その他必要または参考事項】欄に記載し、必要に応じて、参考資料を添付すること。・学外の施設で飼育されている動物を対象とした実験や適用除外に当てはまる実験を実施するが、事前の審査・承認を必要とし、申請を行う場合、対象動物の飼育状況や実験時の状況について通常の飼育と異なり、ストレス環境となるかどうか、実験実施に当たり生じる可能性のある苦痛を軽減する工夫等についても詳細に記載すること。研究分野において類似する先行実験に関する論文等（日本語以外の場合は該当箇所の和訳も添付）があれば、参考添付すると委員会での確認がスムーズに行われる。 |
| **主な実験処置** | 動 物 種 | 動物への具体的処置 | 苦痛度 |
|  | ・使用する動物種ごとに、動物への具体的処置を簡明に書き、具体的処置に該当する苦痛度を記入する。・安楽死処置後の臓器採取は記載不要。（安楽死処置の記載は必要です。）・申請書に記載する苦痛度は、福島大学動物実験委員会において確認した苦痛度分類表があるので、動物実験計画立案の際の参考に使用する場合は、研究・地域連携課までご連絡ください。・国立大学法人動物実験施設協議会のHP（<https://www.kokudoukyou.org/index.php?page=siryou_index>）も参考になります。 |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

・項目１、２を選択した場合は、安全度分類区分も選択する。

・項目２の遺伝子組換え動物使用実験の場合、別途、福島大学遺伝子組換え実験安全委員会への申請・承認が必要。申請状況については【その他必要または参考事項】に必ず記載する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **特殊実験区分**（該当項目をすべて■） | □ | 1. 感染実験　　安全度分類:　□ BSL1 □ BSL2  |
| □ | 2. 遺伝子組換え動物使用実験　　区分: □ P1A □ P2A  |
| □ | 3. 放射性同位元素・放射線使用実験 |
| □ | 4. 化学発癌・重金属実験・その他危険物質（物質名：　　　　　　） |
| **動物実験の種類**（選択項目を■）いずれかを必ず選択 | □ | 1. 試験・研究 | **動物実験を****必要とする理由**（選択項目を■）いずれかを必ず選択 | □ | 1. 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった。 |
| □ | 2. 教育・訓練 | □ | 2. 検討した代替手段の精度が不十分だった。 |
| □ | 3. その他 | □ | 3. その他（ ） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **想定される****苦痛のカテゴリー**（選択項目を■）・【主な実験処置】で記入した中で**最も苦痛度の高いカテゴリーを選択する。**・実験手技の習得等を目的とする実習や実技講習・教育訓練の場合には、対象となる手技の苦痛度を原則として１ランクあげることが推奨されている。 | □ | B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。 |
| □ | C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み（短時間持続するもの）を伴うと思われる実験。 |
| □ | D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験。 |
| □ | E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。・項目３を選択した場合は、**（　）に具体的薬剤名およびその投与量・経路を記入する。**・項目４、５を選択した場合は、【研究計画と方法】の「実験方法」に理由を記入する。・項目７を選択した場合は、（　）に具体的な内容を記入する。 |
| **動物の苦痛軽減、****排除の方法**（該当項目をすべて■） | □ | 1. 軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。 |
| □ | 2. 短期間の保定・拘束なので特に問題ないと考える。 |
| □ | 3. 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。（具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　　　　） |
| □ | 4. 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在しない。（実験方法の欄にその理由を記入すること） |
| □ | 5. 長時間の保定・拘束が避けられない。（実験方法の欄にその理由を記入すること） |
| □ | 6. 人道的エンドポイントを適用する。（実験方法の欄にエンドポイントの判定方法、判定者等を記入すること） |
| □ | 7. その他 （具体的に記入：　　　　　） |
| **安楽死の方法**（該当項目をすべて■） | □ | 1. 麻酔薬等の使用（具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　　　　　　　　　　) |
| □ | 2. 炭酸ガス |
| □ | 3. 中枢破壊（具体的に記入：　　　　　法） |
| □ | 4. 安楽死させない（その理由を記入：　　　　　） |
| □ | 5. その他（具体的に記入：　　　　　）・項目１を選択した場合は、（　）に具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入する。・項目３を選択した場合は、（　）に具体的な方法を記入する。・項目４、５を選択した場合は、（　）にその理由を記入する。「と畜場法」で規制されている屠畜処分が該当する場合には、５を選択してください。ただし、都道府県知事の許可を受け、設置されている場所に限られます。・具体的な処分方法については、「動物の処分方法に関する指針」（総理府告示第40号）に従うことになります。・麻薬指定の薬剤を使用する場合は、麻薬研究者の免許を取得する必要があります。（各都道府県知事の免許を受ける手続き）免許証番号、取得者の所属名、取得者氏名、有効期間の４点を「その他必要または参考事項」欄に記載してください。・向精神薬取締法で指定されている薬剤を使用する場合は、事前に向精神薬試験研究施設設置者登録をする必要があります。（東北厚生局への許認可申請） |
| **動物死体の****処理方法**（選択項目を■） | □ | 1. 外部業者に依託・項目２を選択した場合は、（　）に具体的な内容を記入する。 |
| □ | 2. その他（具体的に記入：　　　　　） |
| **その他必要****または****参考事項** | （過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などを記入する。) |
| ・過去の動物実験計画書承認実績、学内関連委員会への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などを記入する。・麻薬指定の薬剤を使用する場合は、免許証番号、取得者の所属名、取得者氏名、有効期間の４点を記入する。・遺伝子組換え動物使用実験の場合は、福島大学遺伝子組換え実験安全委員会へ申請状況を記入する。・「適用除外に当てはまる実験を実施するが、諸般の事情から事前の審査・承認を必要とすることから申請を行う場合」や「学外の施設で飼育されている動物を対象に実験を実施するが、実施場所での審査体制がなく、本学教職員が研究実施の主導であり、事前の審査・承認を必要とすることから申請を行う場合」については、通常の動物実験において必要となる事前の施設等の承認を経ないため、飼養保管施設および実験実施場所での飼育状況が適切に行われているかがわかるような情報を本欄に記載し、必要に応じて、参考資料（当該施設での管理記録や、管理方法マニュアルなど）を添付してください。 |

|  |  |
| --- | --- |
| **委員会記入欄** | 審査終了：　　　　　　年　　　　月　　　　日 |
| 修正意見等 |
| 審査結果　□　本実験計画は、福島大学における動物実験規程等に適合する。　　　　　　 （条件等　□　遺伝子組換え実験安全委員会の承認後、実験を開始すること。）　　　　　□　本実験計画は、福島大学における動物実験規程等に適合しない。 |

年　　月　　日

動物実験計画書の開示について

動物実験等管理責任者

（所属・職名）

（ 氏　　名 ）

　　研究課題：

　　動物実験計画書の記載内容について（該当するものにチェックする）

* 全面開示する

* 部分開示とする （動物実験計画書の記載内容について「不開示」とする部分に下線を引くこと）※

　　部分開示とする理由（以下に具体的に記載する）※

　　　　※部分開示を選択した場合でも、個人が特定される項目や民間企業等との共同研究等に関し相手方から提供されたノウハウなど、公にすることにより法人や個人の権利、競争上の地位、その他正当な利益を害するおそれがあるもの等以外は**原則開示**されますのでご留意ください。

　　　注）①この文書は、動物実験計画書の申請時に必ず添付してください。

　　　　　②この文書における開示とは、「国立大学法人福島大学情報公開取扱規程」に基づく開示請求があった場合に、開示することを指します。

　　　　　③部分開示の適否についての判断は、動物実験委員会が調査・検討等を行い、学長が決定します。